

令和3年度事業報告

1 概要

世界中を震撼させている新型コロナウイルス感染症は、当センターの第2次中期計画開始時から拡大し、次々と変異を繰り返しながら現在もなお予断を許さない状況が続いています。第2次中期計画の最終年度に当たる令和3年度でしたが、その運営においても多大な影響を受けました。

我が国における少子高齢に伴う労働力人口の減少が懸念される中、働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識や経験を活かし、事業者の抱える人手不足や求人難の問題解決に貢献していくという大きな目標に向かって、当センターの令和3年度事業をスタートいたしました。受注契約額の減少、年間計画における各種講習等やイベントの中止を余儀なくされたところです。

事業実施の要となる会員拡大については、全国シルバー人材センター事業協会（以下、「全シ協」という。）が進める「第2次会員100万人達成計画」の目標達成に向け、月2回の入会説明会及び出張説明会並びに女性限定の説明会、「プラチナ会員制度」の継続など、入会促進に向けた活動を積極的に行い、ハローワークの生涯現役支援窓口とも連携しながら会員数の確保・拡大に取り組みましたが、第4次シルバー事業推進計画会員目標数の736人には達することが出来ず、677人となりました。

高齢者が意欲と能力に応じて働き続けられる環境の整備を目的とした「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の一部改正により、令和3年4月から70歳までの就業機会確保が企業の努力義務とされるなど、定年延長政策の一層の推進により、本事業にとりましては、60歳台の新規入会者の減少が懸念されるという状況もあり、このような諸情勢を踏まえた上での運営の検討が必要となります。

契約金額につきましては、目標総額4億600万円に対し、3億9千万円という結果となりました。コロナ禍による需要の低迷や天候不良などの厳しい条件も重なりましたが、令和3年度は、公共事業の受託額の大幅な減少も見られ、本来シルバー人材センターが持つ社会的意義を踏まえた行政に対する今後一層の働きかけに努める必要があります。

新たな独自事業として龍門滝温泉1階フロアで令和元年にオープンした「湯あがりしょっぷ ほのぼ〜の」は、これからのセンターの拠点としても期待しながら、健康・福祉・観光等、それぞれの分野と連携した取り組みを目指し、始良市地域包括支援センターによる認知症予防教室の共催など、少しずつではありますがその活動範囲を広げつつあります。

また、引き続き会員の手作り品や農産物、地元の特産品、また、障がい者就労

支援事業施設の方々の食品や作品の販売などを行い、お客様がほっこりと訪れ、ほのぼのとゆっくり笑って帰れる空間づくりを目指していきます。

センター事業の推進には、お客様や地域の信頼が第一です。そのためには、「会員・役職員」が「自主・自立・共働・共助」の基本理念のもと、安全で誠実・丁寧な就業に取り組まなければなりません。

令和3年度は、いわゆる「SDGs：持続可能な開発目標」の方向性も見据え、事業活動により発生する剪定・草刈等の残さい処理について、市の目指す今後の環境美化政策に合わせた自然環境の保全・二酸化炭素削減に取り組むべく、「緑のリサイクル」化への取り組みも始めました。

これからもお客様のニーズに応えられるセンターとして、また、会員の皆様が生きがいと誇りをもって活躍できるセンターを目指してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以下、令和3年度の主な事業について報告します。

1 数値目標

- (1) 会員数 第4次シルバー事業推進計画会員目標数 736人
実績 677名（昨年度 714人）
- (2) 契約金額 目標 4億600万円 実績 3億9千万円
（昨年度 3億9千900万円）
（派遣事業込み）
- (3) 就業率 目標 90% 実績 88.6%（昨年度 86%）

2 目指すセンター像

- (1) 会員が生き活きと活動し、笑顔と活気あふれるセンター
- (2) 地域社会に貢献し、市民から信頼されるセンター
- (3) 会員が相互に助け合い共に働き、共に遊ぶ楽しいセンター

3 基本方針

- (1) 高齢者がこれまでの経験や知識を活かしつつ、“生きがい”を持って仕事ができるよう会員の拡大、就業の場の確保を推進します。
- (2) 高齢者が健康で安全に「働く」、また、適正就業を通じて安心して「働く」ことのできる環境づくりを推進します。
- (3) 高齢者が地域の担い手となって、支え合いのまちづくりや活力ある地域社会づくりに貢献します。
- (4) 更なる業務体制の効率化や組織の活性化で事業運営基盤の強化を図ります。

4 具体的重点施策の主な取り組み状況

(1) 高齢者がこれまでの経験や知識を活かしつつ、“生きがい”を持って仕事ができるような会員の拡大、就業の場の確保の推進

① 入会説明会の充実

定例の入会説明会、加治木、蒲生地区の出張入会説明会のほか、女性だけの説明会を蒲生地区で開催し入会促進を図りました。センター紹介DVDやパワーポイントによるわかりやすい説明に努め、また、コミュニティFMの放送を活用し、センターの周知を図りました。

② 地域の仕事のニーズに適合した新規会員の確保

鹿児島県シルバー人材センター連合会（以下、鹿シ連という。）の高齢者活躍人材確保育成事業を活用した「生活援助支援講習」及び、人手不足が危惧される分野に対応するため「子育て支援（保育補助）講習」を計画し、就業機会の拡大に向けた知識や技術の向上と新規会員の確保に取り組みました。8月開催予定の「生活援助支援講習」は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止となりましたが、11月開催の「子育て支援（保育補助）講習」は、15名の参加希望があり関心の高さを実感しました。今後この分野での事業者開拓と就労支援活動が重要になります。

③ 人材の確保等の推進

月2回、ハローワーク国分において生涯現役支援窓口と連携したチラシ配布を行い、就業機会の提供を行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、中止を余儀なくされた場合もありましたが、今後とも継続し、会員の確保と人材活用のための会員就労支援データの整理を図りながら、就労へのマッチング機能の強化に努める必要があります。

④ 民間・公共の就業機会の開拓

発注者用のチラシ作成に取り組み、公共においては、市長・副市長及び関係部長等を訪問し、受託事業の確保と新たな分野での事業展開に取り組みましたが、昨年度と比較して契約額の減少に対する歯止めまでには至りませんでした。

⑤ 労働者派遣事業の推進

引き続きコロナ禍の中ではありましたが、派遣先の就業内容にも変化があり契約額も減額を覚悟する中、会員の皆様の就労意欲も手伝って、昨年度の実績を上回る結果となりました。引き続き、就業機会の提供及び業務拡大分野の就業先の開拓に取り組んでいきます。

⑥ 広報活動の強化

年2回発行の広報紙「シルバーあいら」や会報「動」だけでなく、コミュニティFM等のマスメディアを活用した周知宣伝活動についても昨年度に引き続き積極的に行いました。

本年度は、発注者向け用のチラシ作成を行い、今後各種団体、事業所等への情報提供に利用していきます。

(2) 高齢者が健康で安全に「働く」、また、適正就業を通じて安心して「働く」ことのできる環境づくりの推進

① 安全就業の徹底

安全委員による安全パトロールを実施し、就業現場での安全適正就業基準の遵守と就業中の事故防止に取り組みました。

例年実施している、安全意識を啓発するための「安全大会」と、機器の取扱い等による事故防止のための安全講習会は、コロナウイルス感染予防の観点から昨年度と同様実施できませんでした。

本年度は会員の安全に対する意識を高めるための「安全だより」の発行に加え、ショートメールを利用した注意喚起や情報伝達のテスト配信に取り組みました。今後、事案の緊急度の高いものは迅速に情報提供できるような体制を充実していきます。

② 技能講習・接遇研修の充実

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、今年度は中止を余儀なくされました。

③ 公平・適正就業の徹底

受託・派遣事業ともに業種や種別など就業内容の見極めを行い、事業所等を訪問し協議しながら、適正就業ガイドラインに沿った見直しに努めました。

不適正就業については、公平・適正就業違反取扱基準に基づき指導を行いました。

④ 就業体制の適正化

仕事の内容、契約方法が適正なものになっているかどうか、自主点検や確認作業を行いました。適正就業ガイドラインに基づき「ワークシェアリング」を行い、同一箇所に長期就業する会員に対しては適正化に努め、就業機会の均等化に努めました。

就業に関する苦情に対応するため、公平・適正就業委員会を開催し、再発防止に努めました。

(3) 高齢者が地域の担い手となった、支え合いのまちづくりや活力ある地域社会づくりの貢献

① 積極的なボランティア活動

地域社会への社会貢献の一環として、「県下一斉シルバーの日」に合わせ、市有施設及び史跡の清掃や草払い、剪定作業などボランティア活動を行いました。

② 「ワンコインサービス」

近隣に住む会員の皆様の協力により、サービスを必要とされる方々に「ワンコインサービス」の提供を行いました。

③ 女性会員の就業機会の推進

介護予防・日常生活支援総合事業を通して、女性会員の就業機会の推進を図りました。また、就業支援先としての拡大を視野に入れた「生活援助支援講習」及び「子育て支援（保育補助）講習」を企画し、会員拡大とスキルアップを目指しました。（8月開催予定の「生活援助支援講習」は、新型コロナ感染症予防の観点から中止）

(4) 更なる業務体制の効率化や組織の活性化による事業運営基盤の強化

高齢者の健康で生きがいのある生活の実現に應えるため、役職員の活性化と事務局体制の充実、組織機能の強化を行いました。

① 事務局組織の整備

将来を見込んだ職員の後継者育成と会員・お客様との信頼関係構築を念頭に、事務処理内容の見直しや組織体制の強化に取り組みました。

② 理事会・委員会の充実

理事会及び委員会における率直な意見交換に努め、一層の充実を図りました。計画していた先進地研修会は、本年度も新型コロナウイルス感染拡大に配慮し中止しました。

③ 地域班及び職群班の活動の充実

会員相互の連帯感の醸成と作業の効率化及びクレームや就業中の事故防止を目的に、地域班・職群班を対象とした班長会議を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症対策への配慮から延期を余儀なくされました。

④ 請負制への対応

受注に当たっては、昨年度に引き続き見積書と契約書（請書）の取り交わしによる発注者とのトラブル防止に努めました。

⑤ 健全な財政運営の推進

センターの事業運営は、事業収益と国及び市からの補助金が主要財源となっています。令和3年度は新型コロナウイルスの影響も含め、派遣事業は伸びを維持したものの受託事業は昨年度と同様、目標に達しませんでした。公共事業分野での発注減も大きな要因となっています。補助金の保持・増額や公共事業の受託については、引き続き行政に対する働きかけを行い、またコスト削減と就業先の新規開拓や事業の効率化に努めます。

(ア) 財政基盤の強化

センター運営に欠かせない市の補助金は例年通り確保されましたが、公共事業受託については、大幅な受注減となりました。本センターが令

和3年度からシルバー事業におけるAクラスになったこともあり、補助枠拡大も含めて、行政各部署に対し更なる受注の開拓に努めなければなりません。また、令和3年度からの公共事業の大幅な受注減については、センターの社会的意義及び福祉政策的側面からも回復に向けての強い要請が必要です。

(イ) 独自事業の推進

腐葉土と薪は販売を通して、利用者の要望に応えました。

龍門滝温泉の「湯あがりしょっぶ ほのぼ～の」については、農産加工品や農産物、就労支援施設の手作り品の販売をとおして、社会貢献と利用者へのサービスの提供を行いました。また、令和3年度は始良市地域包括支援センターとの共催による「認知症予防教室」支援の取り組みも開始しました。

(ウ) 資金積み立て

事務所の改築、移転を視野に入れた「事務所整備資金積立」については今回は対応できませんでした。

⑥ コンプライアンス（法令遵守）体制の充実

会員及び役職員が法令及びセンター規則等を守ることは、公益社団法人の義務です。本年度は、全シ協及び鹿シ連の特別指導が実施されましたが、特記するような指摘事項はありませんでした。今後も、法令遵守のより一層の徹底に努めてまいります。

最後に、例年ご支援をいただいております関係機関及び地域の皆様に対し、衷心より感謝を申し上げ事業報告とします。